

平成26年度 入学式 式辞

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。

この日を心待ちにしてこられた、ご家族や関係者の皆さまに、心よりお祝い申し上げます。昨日までの雨も上がり、まさに満開の桜も、皆さまを祝福しているようです。

本日ここに、河村たかし名古屋市長、うかい春美名古屋市会議長をはじめ多くのご来賓のご臨席を賜り、2014年度の入学式を行うことができますことを深く感謝し、お慶び申し上げます。

実は、私をはじめ壇上の教員の多くは、皆さんと同様に、この四月から大役を仰せつかっています。この縁を大切にして、皆さんを我が子のように思い、時には厳しくも温かく接し、皆さんが社会において重要な担い手になるべく、大きく育ててまいります。

名古屋市立大学が、皆さんにとって第二の家庭となった今、温かい家庭には「愛と誇り」があるように、皆さんには名市大を愛し、名市大の学生としての誇りを持っていただきたいと思います。

私たちは、学生の皆さんやご家族のみならず、名古屋市民とすべての教職員からも、名市大が愛され誇りを持たれるよう、世界に冠たる大学をめざし、日々努めてまいります。

ここで名市大の歴史をご紹介します。

名市大は、1884年に設置された名古屋薬学校と、1943年設置の名古屋市立女子高等医学専門学校を源流とし、1964年設置の経済学部と、3大学の統合などにより創設された芸術工学部、人文社会学部、看護学部、システム自然科学研究科の6学部7研究科を有する大学に発展し、2006年には公立大学法人として新たなスタートを切っています。

皆さんには、このように130年にわたる輝かしい伝統を持つ名市大の学生としての「誇りと責任」を持つとともに、名市大が今ここにあるのは、名古屋市民の温かい支えと、本日ご臨席の名市大後援会会長 土屋 隆先生はじめ諸先輩方の長年の苦節の上にあることを自覚し、深く感謝していただきたいと思います。

ところで、今年2月のNHKの「100分de名著」で、社会心理学者エーリッヒ・フロムの著書「愛するということ」が放映されました。2月のことなので皆さんは見る余裕がなかったことと思いますが、充実した大学生活を送るためにも、是非読んでいただきたい名著です。

フロムはその中で、「愛とは愛を生む力である。愛せないということは愛を生むことができない」と述べています。すなわち「愛されることばかりを求め、自分から愛そうとしない人は成熟した愛を体験できない」という意味と捉えて良いでしょう。人間は一人では生きて行けません。自分自身を愛し、家族や友人、地域や日本、そして世界を愛して下さい。その中で名市大への愛を抱いていただきたいと思うのです。

ところで、2006年に教育基本法が60年ぶりに全面改正され、大学の使命として「教育・研究・社会貢献」の3つが示されました。名市大ではそれら3つに、「医療」を加えた4つの使命に、次のように真摯に取り組んでいます。

「教育」とは、まさに文字通り、教え、育てることです。皆さんのこれまでの教育は、受験制度のこともあり、知識を教わることが主体でしたが、大学における「教育」は、「教わる」ことを通して、優れた人間に「育つ」ことです。私たち教職員は、皆さんが幅広い

教養と深みのある人間性を兼ね備えた若者に育ち、次世代のリーダーとして世界で活躍することを願っています。

急速に変化する現代社会に対応するには、基礎科学の知識を広範に身につけておくことが、激動する社会において方向性を見失うこともなく、遅れをとることもないでしょう。そのためには知識は大切ですが、知識をそのまま鵜呑みにするのは危険なことがあります。特にインターネット時代の現在、知識や情報が増えれば増えるほど、「人は考える葦」でなくなりつつあることに私は懸念を抱いています。溢れる情報の中、何が大切か、何が真実かを見極める力をつけることは、大学教育における重要な目標の一つです。

昨今、わが国の大学の「研究」レベルは、諸外国に比べて低下しているとの指摘があります。その原因として、一つには、企業が卒業後直ちに役立つ人材を求めていることなど、社会が実学主義になっていること、もう一つには、大学の財政基盤の弱さがあります。しかし大学が基礎研究にどれほど力を注いでいるかは、その大学の底力を表していると言えます。先に述べたように、個人においても、幅広い教養と豊かな感性を持った人はどことなく奥深く、魅力的なのと同じです。

名市大をとりまく財政状況は決して豊かではありませんが、名市大の基礎体力を今こそじっくり養うためにも、若い人たちが経済的にも時間的にも余裕をもって研究できるよう、私たちはサポートしてまいります。皆さんはこのような背景を十分に理解し、大学生活において、真理を考究するリサーチマインドを身につけて下さい。

本学の特徴の1つは、医薬系の3学部を備え、東部・西部の医療センターと連携して、市民の「医療」に貢献していることです。これからも人間味に溢れた医療人を養成し、独創的で先端的な研究を

世界に発信してまいります。皆さんは、将来その主要な担い手になられることを期待しています。

名市大は、教育・研究・医療の成果をもとに、社会の発展と人類の幸福に寄与してきました。東日本大震災の被災地への支援はその一環で、これからも力を注いでまいります。もう一つ、注目すべき社会貢献をご紹介します。昨年、文部科学省から5年間で約10億円の助成を受け、超高齢化社会における地域医療と在宅医療の理想像を求め、そこに携わる医療人を養成する「なごやかプラン」が始まりました。このプランは、全国で初めての試みで、各方面から注目されています。皆さんもその若い力で、名古屋発の未来の医療福祉に参加して下さい。

ご承知の通り、わが国の海外留学生は、新興国の学生に比べ激減しています。その背景には、現状に満足し、ハングリー精神や向上心が欠如しかけていることがあります。グローバル化が進展し、産業競争や知的競争が一層激しさを増す中、もはや避けることができない彼らとの競争に際し、皆さんは何をすべきですか？そのキーワードは、「チャレンジ精神、独創性」です。皆さん、大きな夢を描き、世界で活躍する人物になることを願っています。

皆さんは、学生生活や長い人生において多くの悩みに遭遇することでしょう。そんな時、「艱難汝を玉にす」や「苦勞は人を強くする」の考え方があります。一方、フランスの哲学者で幸福論の著者、アランの「幸せだから笑えるのではなく、むしろ笑えるから幸せなのだ」とか、「成功して満足するのではない、満足していたから成功したのだ」の言葉は、日本の「笑う門には福来る」とか「吾唯足知」に似て私は好きです。社会に感謝し、満足し、前向きな考え方が、

必ず人生を切り開きます。

さて名古屋市が誇りとする日本を統一した3英傑と世界に進出するトヨタの底流には、勤勉さ、緻密さ、忍耐力、情報収集力があります。名市大にもその遺伝子と精神は流れています。名市大は国際的にトップレベルの大学を目指し、教職員と学生が英知と力を合わせ、日々努力してまいります。

本日ご臨席のご家族の皆様、ならびに河村名古屋市長はじめご来賓の方々には、引き続き、名市大が掲げる崇高な志と理念の実現に向け、温かいご支援とご指導を賜りますよう心よりお願い申し上げます。

新入生の皆さん、皆さんの輝かしい未来を心より祈念し、私の入学式の式辞とさせていただきます。

名市大へのご入学おめでとうございます。

平成26年4月4日

名古屋市立大学 学長

郡 健二郎